

1. 共同研究奨励金グループ名

二重プロセス理論に基づく総合的な人間行動の理解とその応用に関する実験的研究
～学際的学問分野の開拓と現代社会問題解決のための政策分析の実践～

2. 研究会の開催

第1回研究会

日時・場所：2007年4月19日 神奈川大学 17号館401会議室

発表者：杉本 崇（神奈川大学非常勤講師）

THE ORIGINS AND CONSEQUENCES OF DEMOCRATIC CITIZENS'POLICY
AGENDAS: A STUDY OF POPULAR CONCERN ABOUT GLOBALWARMING.

大高 瑞郁（神奈川大学非常勤講師）

Attitudes toward climate change: major emitters in southwestern Kansas

第2回研究会

日時・場所：2007年4月26日 神奈川大学 17号館401会議室

発表者：杉本 崇（神奈川大学非常勤講師）

THE ORIGINS AND CONSEQUENCES OF DEMOCRATIC CITIZENS'POLICY
AGENDAS: A STUDY OF POPULAR CONCERN ABOUT GLOBALWARMING

大高 瑞郁（神奈川大学非常勤講師）

Understanding public complacency about climate change: adults' mental models
of climate change violate conservation of matter

第3回研究会

日時・場所：2007年6月14日 神奈川大学 17号館401会議室

発表者：杉本 崇（神奈川大学非常勤講師）

VISCUSI et al. (2006) "The perception and valuation of the risks of climate
change: A rational and behavioral blend", *Climate Change*77, 151-177.

大高 瑞郁（神奈川大学非常勤講師）

KEAENEY (1994) "Understanding global change: a cognitive perspective on
communicating through stories, *Climatic Change* 27, 419-441

第4回研究会

日時・場所：2007年6月21日 神奈川大学 17号館401会議室

発表者：杉本 崇（神奈川大学非常勤講師）

Bier (2001) On the state of the art: risk communication to the public

大高 瑞郁（神奈川大学非常勤講師）

Seacrest, S., Kuzelka, R. & Leonard, R. (2000)
"Global climate change and public perception"

第5回研究会

日時・場所：2007年6月28日 神奈川大学 17号館401会議室

発表者：杉本 崇（神奈川大学非常勤講師）

I, Lorenzoni, N.F.Pidgeon, R.E.O'Corrnar(2005) "Dangerous climate change:The role for risk research"

大高 瑞郁（神奈川大学非常勤講師）

Sheppard,S.R.J.(2005) "Landscape visualisation and climate change"

第6回研究会

日時・場所：2007年7月5日 神奈川大学 17号館401会議室

発表者：杉本 崇（神奈川大学非常勤講師）

"Do natural science experience influence public attitudes towards environmental problems?"

大高 瑞郁（神奈川大学非常勤講師）

"Experienced-based and description-based perception of long-term risk"

第7回研究会

日時・場所：2007年9月27日 神奈川大学 17号館401会議室

発表者：杉本 崇（神奈川大学非常勤講師）

J. Baron(2006) Thinking about global warming

大高 瑞郁（神奈川大学非常勤講師）

THE GENERATIONAL DIVIDE SUPPORT FOR ENVIRONMENTAL POLICIES: EUROPEAN EVIDENCE JONI HERSCH & W. KIP VISCUSI(2006)

第8回研究会

日時・場所：2007年10月4日 神奈川大学 17号館401会議室

発表者：杉本 崇（神奈川大学非常勤講師）

Leiserowitz(2006) Climate change risk perception and policy preference: the role of affect,imagery,and values

大高 瑞郁（神奈川大学非常勤講師）

Lorenzoni, I. & Pidgeon, N. F.(2006). PUBLIC VIEWS ON CLIMATE CHANGE: EUROPEAN AND USA PERSPECTIVES

第9回研究会

日時・場所：2007年10月11日 神奈川大学 17号館401会議室

発表者：杉本 崇（神奈川大学非常勤講師）

Communication and mental processes:

Experimental and analytic processing of uncertain climate information

大高 瑞郁 (神奈川県立大学非常勤講師)

Pelling, M. & High, C. (2005). Understanding adaptation:
What can social capital offer assessments of adaptive capacity?

第10回研究会

日時・場所：2007年10月18日 神奈川県立大学 17号館401会議室

発表者：杉本 崇 (神奈川県立大学非常勤講師)

Public perception of global warming: united states and international
perspective Bord, Fisher, O'Conner (1998)

大高 瑞郁 (神奈川県立大学非常勤講師)

Niemeyer, S., Petts, J., & Hobson, K. (2005).
Rapid Climate Change and Society: Assessing Responses and Thresholds

第11回研究会

日時・場所：2007年10月25日 神奈川県立大学 17号館401会議室

発表者：杉本 崇 (神奈川県立大学非常勤講師)

M.H. Bazaeman (2006) Climate change as a predictable surprise

大高 瑞郁 (神奈川県立大学非常勤講師)

Anthony A. Leiserowitz (2005).
American Risk Perceptions: Is Climate Change Dangerous?

第12回研究会

日時・場所：2007年11月1日 神奈川県立大学 17号館401会議室

発表者：杉本 崇 (神奈川県立大学非常勤講師)

I. H. Langford (2002) An existential approach to risk perception

大高 瑞郁 (神奈川県立大学非常勤講師)

Jeffrey K. Lazo, Jaspn, C. Kinnell, and Ann Fisher? (2000).
Expert and Layperson Perceptions of Ecosystem Risk

第13回研究会

日時・場所：2007年11月8日 神奈川県立大学 17号館401会議室

議題：アンケート調査の枠組みの検討について

第14回研究会

日時・場所：2007年11月22日 神奈川県立大学 17号館401会議室

発表者：杉本 崇 (神奈川県立大学非常勤講師)

M.T. Boycoff, J.M. Boycoff (2004)
Balance as bias: global warming and the US prestige press

大高 瑞郁 (神奈川県立大学非常勤講師)

Joe Smith?(2005).

Dangerous News: Media Decision Making about Climate Change Risk

第 15 回研究会

日時・場所：2007 年 11 月 29 日 神奈川県立大学 17 号館 401 会議室

発表者：杉本 崇 (神奈川県立大学非常勤講師)：温暖化リスク認知

大高 瑞郁 (神奈川県立大学非常勤講師)：調査デモグラフィック項目

松本 安生 (神奈川県立大学)：政府による温暖化対策

第 16 回研究会

日時・場所：2007 年 12 月 6 日 神奈川県立大学 17 号館 401 会議室

発表者：杉本 崇 (神奈川県立大学非常勤講師)：アンケート調査の質問項目

大高 瑞郁 (神奈川県立大学非常勤講師)：調査デモグラフィック項目

3. 活動内容

メンバー：

松本安生 (人間科学部 人間科学科 准教授)

三星宗雄 (人間科学部 教授)

坪井雅史 (外国語学部 准教授)

渡辺照洋 (経済学部 教授)

柴田直子 (法学部 准教授)

今年度の研究内容

(1)二重プロセス理論に基づく人間行動の総合的な理解に関する理論的研究

①分析的・理性的な人間行動の解明：これまで主に経済学や社会心理学などの分野で論じられてきた分析的・理性的な人間の意思決定について、既存研究のレビューを行い、その知見を整理した。これらの結果を次年度以降の総合的な人間行動モデルの構築における重要な基礎的知見とする。

②直感的・感情的な人間行動の解明：近年、心理学や社会学、倫理学などの分野で論じられてきている直感的・感情的な人間の意思決定の側面について、既存研究のレビューを行い、その知見を整理した。これらの結果を次年度以降における総合的な人間行動モデルの構築における重要な基礎的知見とする。なお、これらの既存研究のレビューは非常に多岐な分野に及ぶため、効率的な整理のためには、それぞれの分野における専門家の協力のもとで行った。

(2)人間行動の総合的な理解に基づいた、現代社会問題解決のための政策分析に関する実験的研究

①喫煙行動に関する実証データの収集：喫煙行動に関する実態とその意思決定要因について、また現在のたばこ政策がそれらに及ぼす影響について実証的なデータの収集を行った。このため、神奈川県立大学横浜キャンパス学生を対象としたアンケート調査を行い、その結果について分析を行った。これらの結果を、総合的な人間行動モデルの構築において、それを補完あるいは修正する実証的データとして利用すると同時に、次年度以降に行うたばこ規制政策の設計とその効果を検証するための社会実験における基礎的データとする。

②温暖化防止行動に関する実証データの収集：個人の温暖化防止行動に関する実態とその意思決定要因について、また現在の温暖化防止政策がそれらに及ぼす影響について実証的なデータの収集を行った。このため、一般市民を対象としたアンケート調査を行い、その結果について分析を行った。これらの結果を、総合的人間行動モデル構築において、それを補完あるいは修正するための実証的データとして利用すると同時に、次年度以降に行う温暖化防止政策の設計とその効果を検証するための社会実験における基礎的データとする。なお、これらの市民アンケートについては、回収数及び回収率を確保するために、調査会社のモニターの中から属性に応じた抽出を行い、インターネットによるアンケート調査を行った。

以上